

『学科専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 国際交流学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）（2022年度以前入学者用）

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づいて卒業生を社会に送り出します。

1. 国際社会が直面する課題について、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分の意見を発信する力と広い視野から国際貢献および異文化理解を実践しうる能力
2. 高い語学力を持つことに加えて、世界の様々な社会や文化に対する深い理解に裏付けられた、異なる文化的背景を持った人々と協働するために真に役立つ外国語コミュニケーション能力
3. 言語・文化・社会についての学びを通じ「自分とは異なる他者・文化・社会」を理解する力を獲得し、主体的かつ協働的なコミュニケーションを実践することのできる力
4. 政治、経済、社会、文化など様々な面でのグローバル化が進行する中、それらを伝えるメディアや社会のあり方について、多角的な視座から把握し正確に分析する力
5. 1つの問題を深く追究することによって養われる探求力と最後までやり抜く課題遂行能力
6. それぞれの専門領域での研究を通して養われる批判的読解力と思考力、アクティブラーニングの実践を通じて獲得される協働力、実践力

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 国際交流学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）（2023年度以降入学者用）

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づいて「関わる力」を備えた卒業生を社会に送り出します。

1. 国際社会が直面する課題について、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分の意見を発信し広い視野での国際貢献を実践しうる能力
2. 世界のさまざまな社会や立場に対する深い理解に裏付けられた、異なる背景を持った人々と協働するために真に役立つ言語コミュニケーション能力
3. 言語・文化・社会についての学びを通じ「自分とは異なる他者・文化・社会」を理解する力を獲得し、多様性の中で主体的に協働できる力
4. 政治、経済、社会、文化などさまざまな面でグローバル化が進行する中、それらを伝えるメディアや社会のあり方について、多角的な視座から把握し正確に分析する力
5. ひとつの問題を深く追究することによって養われる探求力と最後までやり抜く課題遂行能力
6. それぞれの専門領域での研究を通して養われる批判的読解力と思考力、アクティブラーニングを通じて獲得される協働力、実践力

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

2. 国際交流学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）（2022年度以前入学者用）

国際交流学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えてカリキュラムを組んでいます。国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の授業科目を履修し、各コースの必修授業、演習、講義、実習等を通して専門性を深めます。

カリキュラムの中心に据えられる演習は、両コースとも少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域についての知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。

4年次には学科およびコースで深めた学問の集大成として、両コースとも全員が卒業論文を作成します。このように専門性を深める一方で、所属するコース・学科以外の授業科目を関連分野の科目として履修したり、総合現代教養科目を履修したりすることで、専攻分野だけに限定されなることなく、現代人として世界を理解し、積極的に社会に関わるための視野を広げます。

グローバル社会コースでは、国際貢献能力を開発する「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、ネイティブによる実践的英語演習、ICT活用、国内外での社会・地域連携を体験するアクティブラーニングを通じて、グローバルマインド、グローバルスキル、協働力を養います。多様性に富むグローバル社会を理解するために必要な知識と実践は、2・3・4年次生を対象とする豊富な専門科目によって、とくに思考力と発信力を身につけます。歴史・制度・理論・現状・課題などを、国際政治、国際経済、国際法、国際協力の柱を中心に、一人一人の志向に沿った自由度の高いティラーメイド型の科目選択方式で、多角的に学びます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に英語(必修)とフランス語、ドイツ語、中国語、韓国語、スペイン語(ひとつを選ぶ選択必修)のコミュニケーション科目からなる「言語コミュニケーション」を履修し、実践的な語学コミュニケーション能力を身に付け、「留学プロジェクト1」および「海外異文化研究」を履修して海外での学びに向けた準備を行います。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識と実践は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディ領域」の3領域の専門科目を体系的に学び、広い視野と柔軟な思考力を養います。

両コースとも、3年次から4年次にかけて演習科目を履修することにより、より深い専門的な研究を行います。そして、多様な情報の整理、問題に対する多角的な考察および論理的な分析を通して卒業論文に接続していきます。

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

2. 国際交流学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）（2023年度以降入学者用）

国際交流学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えてカリキュラムを組んでいます。国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の必修科目、その他講義科目、演習科目を通して専門性を深めます。

グローバル社会コースでは、国際貢献力を高める「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、実践的英語、ICT活用、国内外でのアクティブラーニングを通じて、グローバルマインドとスキル、協働力を養います。また政治、経済、法、人権、文化、環境の諸分野について国際的規模での歴史・理論・制度・課題を、各自の志向に沿った自由度の高い選択方式で多角的に学び、多様性に富むグローバル社会を理解するための知識と思考力を身につけます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に「異文化コミュニケーション概論」を履修し、異文化間で生じる作用、現象について考察を深めます。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディーズ領域」の3領域の専門科目を体系的に学ぶことによって修得し、広い視野と柔軟な思考力を養います。

3年次から4年次にかけては、演習科目を履修することによって、より専門的な研究を行います。演習科目は少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域に関する知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。そして、多様な情報の整理、問題に対する論理的な考察と分析を通して、4年次にはそれまでに深めた学問の集大成として、卒業論文を執筆します。現代人として世界を理解し積極的に社会に関わるためには、リベラル・アーツの学びを尊重し、他学科の授業科目や総合現代教養科目も関連分野、全学共通科目として履修することで専門分野との関連性を見出し、教養を深めます。

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

3. 国際交流学科の進学生・編入学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

国際交流学科では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに進学していただきたいと願っています。

本学科では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。そのため、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることが体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。

本学科では、コース別に受け入れますが、どちらのコースで学んでも高い言語コミュニケーション能力と、深く幅広い専門知識を身に付け、将来、異文化を理解し国際社会に貢献できる人物になりたいと考える学生を望んでいます。

そのため、国際交流の学生には国際社会における様々な現象、動態に関心を持ち、それらの分析や問題解決のために多角的な視野を持って論理的に判断、考察できる能力を身に付けることを期待されます。